



SVERIGES AMBASSAD



医療・高齢者介護・いのちの未来への協力提携にむけてプロジェクト 関連セミナー

“有効な感染症管理による安全・高効率・低コストなケアへの取り組み”

セミナー開催のご案内
(同時通訳付き)

拝啓

春寒の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さてこの度、スウェーデン高齢者福祉国民保健担当大臣マリア・ラーション氏の来日に際し、在日スウェーデン大使館およびスウィーケア財団の共催により、上記のセミナーを開催する運びとなりました。

本セミナーの目的は、感染症管理の分野に関わるスウェーデンと日本の利害関係者の皆様にとって、新たな協力提携の機会を促進することにあります。その内容は、ケアに関わるあらゆる領域とタイプのケア施設における、効率的な感染症管理対策が果たす重要な役割に焦点を当てております。有効な感染症管理を行うことで、いかに安全で効率が高くコストを抑えたケアの取り組みを可能にし、患者の立場に立ったケアの質の改善が実現できるかを探求する、共通の場をご提供できることを期待しております。

日本とスウェーデン両国のヘルスケア体制における、現在と未来に関わるチャレンジに立ち向かうための重要な課題を話し合い意見交換することで、互いに鼓舞し合う機会となることを願っております。

つきましては、ご多忙中とは存じますが、万障お差し繰りの上ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。なお、お手数ながらご出席の有無を **3月17日(火)まで**にファックス返答用紙にてご返送下さいますようお願い申し上げます。

なお、セミナーの詳細については、別紙プログラムをご参照ください。

敬具

在日スウェーデン大使館
大使 ステファン・ノレーン

□医療・高齢者介護・いのちの未来への協力提携にむけて□プロジェクト 関連セミナー

“有効な感染症管理による安全・高効率・低コストなケアへの取り組み”

(同時通訳付き)

日時：2009年3月24日 午前9時30分～12時30分

会場：スウェーデン大使館オーディトリウム

プログラム

□□□□ 受付開始 □ スウィーケア財団展示

□□□□ 開会 司会 スウィーケア財団専務理事 カーリン・リンド□モーネステーン氏
開会の挨拶 スウェーデン高齢者福祉□国民健康担当大臣マリア・ラーション氏
ご挨拶 厚生労働省健康局結核感染症課担当官 (ご登壇者未定)

□□□□□□

事例と対話：

- ・「高齢者ケアにおける感染症予防のための持続可能な解決策」
ヨスタ・ブクト氏、ウメオ大学病院教授
- ・「感染症管理—持続可能で財政的に負担可能なヘルスケアのための手段として—」
ヨハンナ・アダミ氏、カロリンスカ医科大学准教授

□□□□□□□□□□ 休憩&コーヒーブレイク

- ・「日本におけるゲロントロジー分野での感染症管理についての視点」
稲松孝思氏、東京都老人医療センター研究検査部長 (感染科医長兼任)
- ・「ケアに関連する感染症予防—スウェーデンの新技术を活用した救命法」
クリスチャン・キンチ氏、バクティガード社 専務取締役
- ・「ゲティング社の感染管理事業—ケアの質の向上をめざして」
金子勝氏、ゲティング・ジャパン株式会社代行取締役社長
- ・「有害薬物の安全な取り扱いの実践」
ダン・ピトゥーリア氏、カーメルファーマ株式会社 最高経営責任者

総括・質疑応答

□□□□□□ 終了

“有効な感染症管理による安全・高効率・低コストなケアへの取り組み”

講演者プロフィール (ご登壇順/敬称略)

□□□□□□□□□□ヨスタ・ブクト[医師、医学博士、ウメオ大学医学部地域医療・リハビリテーション・老年医学科教授、大学病院教授。 □□□□年に医師免許取得し、□□□□年にウメオ大学医学部老年医学科教授に就任。□□□□年から □□年まで老年学科[老年精神医学科の主任教授、□□□□年から □□□□年までは、地域医療・リハビリテーション学科の主任教授を務めた。他に様々な医学研究評議会のメンバーを歴任し、現在は、ヴェステルボッテン市議会のために、遠隔医療と診断支援システムに重点を置いた高齢者のためのe-ヘルス促進のためのコーディネーターを努める。

□□□□□□□□□□ハンナ・アダミ[医師、カロリンスカ医科大学准教授、バクティガード社 □□□□□□□□医療ディレクター。 医師としての広範な実践経験から、カロリンスカ医科大学臨床疫学科准教授に任命される。ハーバード大学からは公衆衛生学の修士号を取得し、同大学の疫学科と生物統計学科と緊密な協力関係にある。また、スウェーデン・米国・中国を含む各国で臨床研究の主任調査官も務める。参加しているプロジェクトには、感染症管理分野も含まれる。

稲松孝思 (いなまつたかし) 医師・医学博士 東京都老人医療センター研究検査科部長・感染科医長併任。金沢大学医学部卒。□□□□年同大学より医学博士号授与。感染症学会専門医・老年医学会専門医・内科学会認定医、□□□□。東京都養育院附属病院[現 東京都老人医療センター]主事を皮切りに、同感染症科医長、感染症科部長を歴任し、□□□□年より研究検査科部長を併任。また、埼玉医科大学の非常勤講師を務めた他、現在、東京大学医学部非常勤講師・杏林大学客員教授も務める。学会では、日本感染症学会・日本老年医学会・日本化学療法学会・日本環境感染学会の各評議員、日本臨床微生物学会理事を務める。

□□□□□□□□□□(クリスチャン・キンチ) バクティガード社 (□□□□□□□□) 最高経営責任者。□□□□年にストックホルム王立商科大学を卒業後、世界有数のヘルスケア企業ロシュ社のスウェーデン法人に製薬部門のコンサルタントとして就職。その後自ら創立した製薬コンサルティング会社 □□□□□□□□が □□年ヨーロッパ最大の □□□□□□□□□□と合併、北欧地区代表となる。□□年には、尿道感染リスクを減らすために特殊コーティングした特許導尿カテーテルの製造・販売を行うバクティガード社の筆頭株主となる。同社製品の使用患者数は、□□年の □□□万人から □□□□年には □□□□万人に増加した。

□□□□□□□□□□(金子勝) ゲティング・ジャパン株式会社 代表取締役社長。□□□□年東京生れ。武蔵工業大学で機械工学を専攻。機械商社第一実業、製薬・化粧品機械事業部に勤務していた □□□□年からゲティングの事業に関わる。その後、□□□□年に □名でゲティング・サイエンティフィック株式会社を設立し製薬会社、注射製剤設備向け事業から開始する。□□□□年にはゲティング・ジャパン株式会社と社名を改め、新たな企業として出発し、資本金を □□□□万円に増資。従業員 □□名。日本でのゲティング社製品の売り上げは、約 □□□台基。

司会：□□□□□□□□□□(カーリン・リンド=モーネステーン) 歯科医師、スウィーケア財団専務理事。ウプサラ大学で経済学学士号、カロリンスカ医科大学で歯科学修士号を取得。歯科医として勤務後、医療ケアなどのビジネス開発・促進に関わる数々の要職を歴任。□□□□年から現職。